監修　高木市之助　久松潜一
山岸德平　小島吉雄

新訂萬葉集

四

佐伯梅友校註
藤森朋夫校註
石井庄司校註

監修　高木市之助　久松潛一
山岸德平　小島吉雄

新訂 萬葉集 四

佐伯梅友校註
藤森朋夫校註
石井庄司校註

朝日新聞社刊
日本古典全書

佐伯梅友（さへきうめとも）明治三十二年埼玉縣生。昭和三年京都大學國語國文學科卒業。東京教育大學名譽教授、東文化大學學長。主著―萬葉語研究、源氏物語新抄、古今和歌集等。

藤森朋夫（ふぢもりともを）明治三十一年長野縣生。昭和四十四年歿。昭和四年東北大學國文學科卒業。東京女子大學教授を經て大東文化大學教授。主著―堤中納言物語新釋、萬葉集研究書誌、近代秀歌等。

石井庄司（いしゐしやうじ）明治三十三年奈良縣生。昭和三年京都大學國語國文學科卒業。東京教育大學教授を經て東海大學教授。主著―國文學と國語教育、古典考究（記紀・萬葉）等。

日本古典全書

「訂新萬葉集」四　佐伯梅友・藤森朋夫
石井庄司校註

昭和二十八年三月二十五日初版發行
昭和五十年三月三十日新訂初版發行
印刷所　凸版印刷株式會社
發行所　朝日新聞社（東京都千代田區有樂町・大阪市北區中之島・北九州市小倉北區砂津・名古屋市中區榮）

定價　一二〇〇圓

1391-211033-0042

目次

本文

〔訓〕

卷第十三……三
雜歌……三
三三一　雜歌二十七首
相聞……一〇
三四八　相聞歌五十七首
問答……一四
三三〇五　問答の歌十八首
譬喩歌……二七
三三三　譬喩歌一首

〔原文〕

卷第十三……一四五
雜歌……一四五
三三一　雜歌二十七首
相聞……一五一
三四八　相聞歌五十七首
問答……一六四
三三〇五　問答歌十八首
譬喩歌……一六七
三三三　譬喩歌一首

挽歌……一六
三三四　挽歌二十四首
卷第十四……一七
東歌……一七
三三四八　上總の國の雜歌一首
三三四九　下總の國の雜歌一首
三三五〇　常陸の國の雜歌二首
三三五一　信濃の國の雜歌一首
相聞……一六
三三五三　遠江の國の相聞往來の歌二首
三三五五　駿河の國の相聞往來の歌五首
三三六〇　伊豆の國の相聞往來の歌一首
三三六一　相模の國の相聞往來の歌十二首
三三七三　武藏の國の相聞往來の歌九首

挽歌……一六七
三三四　挽歌二十四首
卷第十四……一七五
東歌……一七五
三三四八　上總國雜歌一首
三三四九　下總國雜歌一首
三三五〇　常陸國雜歌二首
三三五一　信濃國雜歌一首
相聞……一七六
三三五三　遠江國相聞往來歌二首
三三五五　駿河國相聞往來歌五首
三三六〇　伊豆國相聞往來歌一首
三三六一　相模國相聞往來歌十二首
三三七三　武藏國相聞往來歌九首

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

三三八二　上總の國の相聞往來の歌二首
三三八四　下總の國の相聞往來の歌四首
三三八八　常陸の國の相聞往來の歌十首
三三九八　信濃の國の相聞往來の歌四首
三四〇二　上野の國の相聞往來の歌二十二首
三四〇四　下野の國の相聞往來の歌二首
三四〇六　陸奥の國の相聞往來の歌三首
譬喩歌……四五
三四〇九　遠江の國の譬喩歌一首
三四三〇　駿河の國の譬喩歌一首
三四三二　相模の國の譬喩歌三首
三四三四　上野の國の譬喩歌三首
三四三七　陸奥の國の譬喩歌一首
雜歌……四七
三四三八　未勘國の雜歌十七首

三三八二　上總國相聞往來歌二首
三三八四　下總國相聞往來歌四首
三三八八　常陸國相聞往來歌十首
三三九八　信濃國相聞往來歌四首
三四〇二　上野國相聞往來歌二十二首
三四〇四　下野國相聞往來歌二首
三四〇六　陸奥國相聞往來歌三首
譬喩歌……一八八
三四〇九　遠江國譬喩歌一首
三四三〇　駿河國譬喩歌一首
三四三二　相模國譬喩歌三首
三四三四　上野國譬喩歌三首
三四三七　陸奥國譬喩歌一首
雜歌……一八九
三四三八　未勘國雜歌十七首

相聞……一九二
三四五五　未勘國相聞往來歌百十二首
防人歌……二〇七
三五六七　未勘國防人歌五首
譬喩歌……二〇八
三五七二　未勘國譬喩歌五首
挽歌……二〇九
三五七七　未勘國挽歌一首
卷第十五……二一一
天平八年丙子夏六月遣使新羅國之時使人等各悲別贈答及海路之上慟旅陳思作歌幷當所誦詠古歌一百四十五首……二一一
三五七八　贈答歌十一首

相聞……只八
三四五五　未勘國の相聞往來の歌百十二首
防人の歌……毛七
三五六七　未勘國の防人の歌五首
譬喩歌……毛七
三五七二　未勘國の譬喩歌五首
挽歌……天八
三五七七　未勘國の挽歌一首
卷第十五……五九
天平八年丙子夏六月、使を新羅國に遣しし時、使人どもの、おのおの別を悲しびて贈答し、また、海路の上に旅を慟しび思を陳べて作れる歌幷せて所に當りて誦詠せる古歌一百四十五首……五九
三五七八　贈答の歌十一首

三五八九　秦の間滿が歌一首
三五九〇　しばらく私の家に還りて思を陳ぶる歌一首
三五九一　發つに臨む時の歌三首
三五九四　船に乘り海に入りて路上にして作れる歌八首
三六〇二　所に當りて誦詠せる古歌十首
三六〇三　備後の國の水調の郡長井の浦に舶泊てし夜作れる歌三首
三六一五　風速の浦に舶泊てし夜作れる歌二首
三六一七　安藝の國の長門の島に舶を磯邊に泊てて作れる歌五首
三六三一　長門の浦より舶出せし夜、月の光を仰ぎ觀て作れる歌三首
三六三五　古き挽歌　丹比の大夫の亡妻を悽み愴く挽歌一首短歌一首幷せたり
三六三七　物に屬きて思を發せる歌一首短歌二首幷せたり

三五八九　秦間滿謌一首
三五九〇　暫還私家陳思歌一首
三五九一　臨發之時歌三首
三五九四　乘船入海路上作歌八首
三六〇二　當所誦詠古歌十首
三六〇三　備後國水調郡長井浦舶泊之夜作歌三首
三六一五　風速浦舶泊之夜作歌二首
三六一七　安藝國長門島舶泊磯邊作歌五首
三六三一　從長門浦舶出之夜仰觀月光作歌三首
三六三五　古挽歌　丹比大夫悽愴亡妻挽歌一首幷短歌一首
三六三七　屬物發思歌一首幷短哥二首

三六三〇　周防の國の玖珂の郡麻里布の浦を行きし時作れる歌八首
三六三八　大島の鳴門を過ぎて再宿を經たる後、追ひて作れる歌二首
三六四〇　熊毛の浦に舶泊てし夜作れる歌四首
三六四四　佐婆の海中に忽ちに逆風に遭ひ、漂流して、豐前の國の下毛の郡の分間の浦に著き、艱難を追ひ怛みて作れる歌八首
三六五一　筑紫の館に至り、遙に本郷を望み、悽み愴きて作れる歌四首
三六五六　七夕に天漢を仰ぎ觀て、おのおの思ふ所を陳べて作れる歌三首
三六五九　海邊に月を望みて作れる歌九首
三六六八　筑前の國の志摩の郡の韓亭に到りて作れる歌六首
三六七四　引津の亭に舶泊てて作れる歌七首

三六三〇　周防國玖珂郡麻里布浦行之時作歌八首
三六三八　過大島鳴門而經再宿之後追作歌二首
三六四〇　熊毛浦舶泊之夜作歌四首
三六四四　佐婆海中忽遭逆風漂流著豐前國下毛郡分間浦追怛艱難作歌八首
三六五一　至筑紫館遙望本郷悽愴作歌四首
三六五六　七夕仰觀天漢各陳所思作歌三首
三六五九　海邊望月作歌九首
三六六八　到筑前國志摩郡之韓亭作歌六首
三六七四　引津亭舶泊之作歌七首

三六八一　肥前の國の松浦の郡の狛島の亭に舶泊てし夜作れる歌七首
三六八八　挽歌　壹岐の島に到りて、雪の連宅滿が死去りし時作れる歌一首短歌二首幷せたり
三六九一　葛井の連子老が作れる歌一首短歌二首幷せたり
三六九四　六鯖が作れる歌一首短歌二首幷せたり
三六九七　對馬島の淺茅の浦に到りて舶泊てし時作れる歌三首
三七〇〇　竹敷の浦に舶泊てし時作れる歌十八首
三七一八　筑紫に回り來て海路京に入るに、播磨の國の家島に到りて作れる歌五首
中臣の朝臣宅守、藏部の女嬬狹野の茅上の娘子を娶りし時、勅して流罪に斷じて、越前の國に配しき。ここに夫婦、別れ易く會ひ難きを相嘆き、おのおの働しびの情を陳ぶる贈答

三六八一　肥前國松浦郡狛島亭舶泊之夜作歌七首
三六八八　挽歌　到壹岐島雪連宅滿死去之時作歌一首幷短歌二首
三六九一　葛井連子老作歌一首幷短歌二首
三六九四　六鯖作歌一首幷短歌二首
三六九七　到對馬島淺茅浦舶泊之時作歌三首
三七〇〇　竹敷浦舶泊之時作歌十八首
三七一八　回來筑紫海路入京到播磨國家島作歌五首
中臣朝臣宅守娶藏部女嬬狹野茅上娘子之時勅斷流罪配越前國也
於是夫婦相嘆易別難會各陳慟情贈答歌六十三首……二三五

の歌六十三首……七六
三七三　別に臨み娘子の悲しび嘆きて作れる歌四首
三七七　中臣の朝臣宅守が道に上りて作れる歌四首
三七三　配所に至りて中臣の朝臣宅守が作れる歌十四首
三七四五　娘子の京に留りて悲しび傷みて作れる歌九首
三七五四　中臣の朝臣宅守が作れる歌十三首
三七六七　娘子の作れる歌八首
三七七五　中臣の朝臣宅守が、更に贈れる歌二首
三七七七　娘子の和へ贈れる歌二首
三七七九　中臣の朝臣宅守が花鳥に寄せて、思を陳べて作れる歌七首

卷第十六……八三
由縁ある雜歌……八三
三七八六　ふたりの壯士の、娘子を誂ひしに、遂に壯士に適

三七三　臨別娘子悲嘆作歌四首
三七七　中臣朝臣宅守上道作歌四首
三七三　至配所中臣朝臣宅守作歌十四首
三七四五　娘子留京悲傷作歌九首
三七五四　中臣朝臣宅守作歌十三首
三七六七　娘子作歌八首
三七七五　中臣朝臣宅守更贈歌二首
三七七七　娘子和贈歌二首
三七七九　中臣朝臣宅守寄花鳥陳思作歌七首

卷第十六……二四七
有由縁雜歌……二四七
三七八六　二壯士誂娘子遂嫌適壯士入林中死

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

はむことを嫌ひて、林の中に入りて死りし時、おのおの心緒を陳べて作れる歌二首

三七八八　みたりの男の、共にひとりの女を嫂ひしに、娘子嘆息きて水底に沈没みし時、哀傷に勝へず、おのおの心を陳べて作れる歌三首

三七九一　竹取の翁の、たまたま九箇の神女に會ひ、近く狎れし罪を贖ひて作れる歌一首短歌幷せたり

三七九四　娘子等の和ふる歌九首

三八〇三　娘子の、竊に壯士に交接りし時、親に知らせまく欲りして、その夫に與へたる歌一首

三八〇四　壯士の專ら使節として遠き境に赴きしかば、娘子年を累ねて姿容の疲羸せることを悲嘆せしに、壯士の還り來て涙を流して口號める歌一首

三八〇五　娘子の、夫の君の歌を聞き、聲に應へて和ふる歌一首

時各陳心緒作歌二首

三七八八　三男共娉一女娘子嘆息沈没水底時不勝哀傷各陳心作歌三首

三七九一　竹取翁偶逢九箇神女贖近狎之罪作歌一首幷短歌

三七九四　娘子等和歌九首

三八〇三　娘子竊交接壯士時欲令知親與其夫歌一首

三八〇四　壯士專使節赴遠境娘子累年悲嘆姿容疲羸壯士還來流涙口號歌一首

三八〇五　娘子聞夫君歌應聲和歌一首

三八〇六　女子の、竊に壯士に接ひて、その親呵嘖し、壯士悚惕せし時、娘子の夫に贈り與ふる歌一首
三八〇七　葛城の王、陸奥に發きし時、祇承の緩怠なりしかば、王の意、悅びざりしに、采女の觴を捧げて詠める歌一首
三八〇八　男女の衆集ひて野遊せし時に、鄙人の夫婦あり、容姿衆諸に秀れたり。よりて美貌を贊嘆せる歌一首
三八〇九　幸せらえし娘子、寵薄れて寄物を還し賜ひし時、娘子の怨恨める歌一首
三八一〇　ある時、娘子、夫に相別れて後、夫の正身は來ずて、ただ裏物を賜へるに、娘子の還し酬ゆる歌一首
三八一一　夫の君に戀ふる歌一首短歌幷せたり
三八一三　ある時、娘子、夫の君に戀ひ、痾痩に沈み臥して、

三八〇六　女子竊接壯士其親呵嘖壯士悚惕時娘子贈與夫歌一首
三八〇七　葛城王發陸奥時祇承緩怠王意不悅采女捧觴詠歌一首
三八〇八　男女衆集野遊時有鄙人夫婦容姿秀衆諸仍贊嘆美貌歌一首
三八〇九　所幸娘子寵薄還賜寄物時娘子怨恨歌一首
三八一〇　時娘子相別夫後夫正身不來徒賜裏物娘子還酬歌一首
三八一一　戀夫君歌一首幷短歌
三八一三　時娘子戀夫君沈臥痾痩喚其夫逝沒

その夫を喚び、逝沒りし時、口號める歌一首
三八一四 贈れる歌一首
三八一五 娘子の、夫の君に棄てらえて、他氏に改め適きしに、壯士改め適きしことを知らざりしかば、改め適きし緣を顯せる歌一首
三八一六 穗積の親王の、宴飲の日、酒酣なるときの御歌一首
三八一七 河村の王の、宴居に琴を彈きて先誦する歌二首
三八一九 小鯛の王の、宴居に琴を取りて先詠ずる歌二首
三八二一 兒部の女王の嗤ふ歌一首
三八二二 椎野の連長年が歌一首
三八二三 又和ふる歌一首
三八二四 長の忌寸意吉麻呂が歌八首
三八三一 忌部の首の、數種の物を詠める歌一首
三八三三 境部の王の、數種の物を詠める歌一首

時口號歌一首
三八一四 贈歌一首
三八一五 娘子見棄夫君改適他氏壯士不知改適顯改適之緣歌一首
三八一六 穗積親王宴飲日酒酣御歌一首
三八一七 河村王宴居彈琴先誦歌二首
三八一九 小鯛王宴居取琴先詠歌二首
三八二一 兒部女王嗤歌一首
三八二二 椎野連長年歌一首
三八二三 又和歌一首
三八二四 長忌寸意吉麻呂歌八首
三八三一 忌部首詠數種物歌一首
三八三三 境部王詠數種物歌一首

三八三四　作主のいまだ詳ならざる歌一首
三八三五　新田部の親王に獻れる歌一首
三八三六　行文の大夫の、佞人を誘る歌一首
三八三七　府官酒食を設けて、右兵衛名失を誘ひて、荷葉に關けて歌を作らしめしに、登時聲に應へて歌へる一首
三八三八　心の著くところ無き歌二首
三八四〇　池田の朝臣が、大神の朝臣奥守を嗤ふ歌一首
三八四一　大神の朝臣奥守が、報へ嗤ふ歌一首
三八四二　平群の朝臣が嗤ふ歌一首
三八四三　穗積の朝臣が和ふる歌一首
三八四四　土師の宿禰水通が、巨勢の朝臣豐人等の黑色を嗤咲ふ歌一首
三八四五　巨勢の豐人が、これを聞きて酬い咲ふ歌一首
三八四六　戲に僧を嗤ふ歌一首

三八三四　作主未詳歌一首
三八三五　獻新田部親王歌一首
三八三六　行文大夫誘佞人歌一首
三八三七　府官設酒食誘右兵衛名失關荷葉作歌登時應聲歌一首
三八三八　無心所著歌二首
三八四〇　池田朝臣嗤大神朝臣奥守歌一首
三八四一　大神朝臣奥守報嗤歌一首
三八四二　平群朝臣嗤歌一首
三八四三　穗積朝臣和歌一首
三八四四　土師宿禰水通嗤咲巨勢朝臣豐人等黑色歌一首
三八四五　巨勢豐人聞之酬咲歌一首
三八四六　戲嗤僧歌一首

三八四七　法師の報ふる歌一首
三八四八　忌部の黑麻呂が、夢の裏に作れる歌一首
三八四九　河原寺の和琴の面の無常の歌二首
三八五一　また無常の歌二首
三八五三　大伴の宿禰家持が、吉田の連石麿の痩せたるを嗤ふ歌二首
三八五五　高宮の王の、數種の物を詠める歌二首
三八五七　夫の君に戀ふる歌一首
三八五八　また戀ふる歌二首
三八六〇　筑前の國の志賀の白水郎の歌十首
三八七〇　無名の歌六首
三八七六　豐前の國の白水郎の歌一首
三八七七　豐後の國の白水郎の歌一首
三八七八　能登の國の歌三首
三八八一　越中の國の歌四首

三八四七　法師報歌一首
三八四八　忌部黑麻呂夢裏作哥一首
三八四九　河原寺和琴面無常歌二首
三八五一　又無常歌二首
三八五三　大伴宿禰家持嗤咲吉田連石麿痩歌二首
三八五五　高宮王詠數種物歌二首
三八五七　戀夫君歌一首
三八五八　又戀歌二首
三八六〇　筑前國志賀白水郎歌十首
三八七〇　無名歌六首
三八七六　豐前國白水郎歌一首
三八七七　豐後國白水郎歌一首
三八七八　能登國歌三首
三八八一　越中國歌四首

三八五　乞食者の詠める歌二首
三八七　怕るる物に歌三首
巻第十七……一〇九
三八九　天平二年庚午の冬十一月、太宰の帥大伴の卿の、大納言に任けらえ、京に上りし時、傔従の人等別に海路を取りて京に入る。ここに羇旅を悲しみ傷み、おのおの所心を陳べて作れる歌十首
三九〇〇　同じき十年七月七日、大伴の宿禰家持が、ひとり天漢を仰ぎていささか懐を述ぶる歌一首
三九〇一　同じき十二年十二月九日、大伴の宿禰家持が、太宰の時の梅花に追ひて和ふる新しき歌六首
三九〇七　同じき十三年二月、右馬頭境部の宿禰老麻呂が、三香の原の新しき都を讃むる歌一首短歌幷せたり
三九〇九　四月二日、大伴の宿禰書持が、霍公鳥を詠みて兄

三八五　乞食者詠歌二首
三八七　怕物歌三首
巻第十七……二六九
三八九　天平二年庚午冬十一月大宰帥大伴卿被任大納言上京時傔従人等別取海路入京於是悲傷羇旅各陳所心作歌十首
三九〇〇　同十年七月七日大伴宿禰家持獨仰天漢聊述懐歌一首
三九〇一　同十二年十二月九日大伴宿禰家持追和大宰時梅花新歌六首
三九〇七　同十三年二月右馬頭境部宿禰老麻呂讃三香原新都歌一首幷短歌
三九〇九　四月二日大伴宿禰書持詠霍公鳥贈

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com